

1人1人が自立へ向かって、光ろう！

いっとうしょうぐう 一灯照隅

5 4 3 人がみんなで光れば、

灯中はさらに輝く！

福井市灯明寺中学校 指導部通信

発行 福井市灯明寺中学校

9月 8日

生徒指導部

令和7年度 第9号

Q：それぞれの（ ）に当てはまる言葉は何だと思う？

【ボスとリーダーの違い】



ボスは「私は…」と言う。リーダーは（「① は…」）と言う。

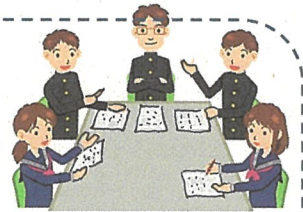
ボスは「やれ」と言う。リーダーは（「② 」）と言う。

ボスは「時間通りに来い」と言う。リーダーは（③ ）いる。

ボスはやり方を胸に秘める。リーダーはやり方を（④ ）。

ボスは仕事を苦役に変える。リーダーは仕事を（⑤ ）に変える。

ボスは恐怖を吹き込む。リーダーは（⑥ ）を吹き込み、引き出す。



生徒指導部より

9月の生活目標 ① **RE:START** ～優先順位を考えて、切り替えできる集団へ～

② 「感謝」に気付き、『ありがとうの灯中』を築こう

☆いよいよ学校祭です！

12（金）文化祭、13（土）体育祭が近づいてきました。夏休み前からいろんな部門に分かれて、学校祭に向けて準備してきました。執行部、文化委員、体育委員、応援団、色看板、灯中ソーラン、色 T シャツ、各部門…特に3年生がリーダーとなって、『Spark～全力で描け青春の色～』のテーマのもと、主体的に活動する皆さんの姿が多く見られています。

学校祭は灯中生の大きな思い出に残る一大イベントですし、1～3年生までの縦割りの活動が多く、自分や集団を成長させる絶好のチャンスです。先輩後輩の壁を越えて、他人の気持ちを想像しながら、思いっきり活動してほしいです。だって、せっかくの楽しみごとなんだから本番だけでなく、準備期間も気持ちよくしたいじゃないですか。

リーダーを中心に、全員がちょっぴり大人になって、それぞれの『青春の色』を感じられる学校祭にしてください。

*

でも、毎年いろんなリーダーが、決まって先生に相談しにきます。「みんなが大きな声を出してくれません…」

「一部の人真剣に話を聞いてくれない。作業したり、踊ったりしてくれない…どうしたらいいですか？」…。一生懸命だからこそ悩むし、中には困ってしまっていて涙ぐんでいるリーダーもいました。

そんなリーダーに先生は「そうだよなあ、みんなが思うように動いてくれないとツライよなあ。元気なくなっちゃうよなあ。でもそんな時こそ、カラ元気でもいいから、まずは自分が元気出してごらん。そんな姿を見ていると、ひょっとして声出していない子も、頑張ってくれるかもよ？」と伝えたのを覚えています。どの学年の人でも『リーダーの苦悩』を分かってやってほしいと思います。

☆ボスとリーダーの違いとは…

1学期の初め、そして夏休みが明けたタイミングでリーダー研修会がありました。3年生はもちろん、1・2年生もこの先いろんなリーダー役に挑戦する日がきっとやってきます。そんなリーダー研修会で、リーダーとして大事なことを考えてほしいと、感じてほしいと、リーダー達に上のクイズを出しました。

『皆さんにクイズです。上の【ボスとリーダーの違い】の中の（ ）に当てはまる言葉は何だと思う？考えてみて。』

みんなも考えてみてください。答えは…

①（「われわれ は…」）②（「やろう」）③（時間までに行って待つ）④（教える）⑤（ゲーム）⑥（熱意）

リーダーとして、いや、誰かと目標に向かって取り組む際に、どの人にとっても大切なことだと思います。そしてこれらは、生徒の皆さんに考えてほしいとともに、自分自身が、教師として親として気をつけなくちゃいけないことだと思うのですが、どうでしょうか。

☆『競争に意味はあるのか』

裏にみんなと同じ中学生が書いた作文を載せました。一度この時期にみんなに読んでほしいからです。読んでみてください。



以前担任した中学生が書いた作文です。しかも、この作文、英語の弁論大会で発表したもので、原文はこの生徒が書いた英文です(スゲー!)。「何のために努力するのか」「何のために学ぶのか」という問いに対するひとつの答えじゃないかなーと感心させられてしまう作文です。教師として忘れてはいけないことについて、先生にとっても印象深いもの

「競争に意味はあるのか」 ごもありま。読んでみて下さい。

今回のオリンピックが開催されるオーストラリアには、アボリジニと呼ばれる先住民がいます。イギリス人が移住し開発を進め、発展した都市や郊外の住宅地には、住みよい自然条件のそろった海岸沿いに集中し、オーストラリアの中央部は今も手つかずの荒々しい厳しい自然が残っているそうです。アボリジニは、そこで今も限りなく自然のままで暮らしている人たちです。長い旅をするときでも、彼らは食料を持ち歩きません。作物を植え収穫したり、食料を得るために家畜を育てたりすることはしません。その日の糧は自然から与えられると確信して、焼け付くような荒地をただ歩くだけなのだそうです。食べ物が現れた時には、時間に関係なく口に入れ、ここで一口あそこで一口食べる。ある時に食べる、ない時は食べないで過ごすそうです。それでも自然は、彼らの望むものを望む時に与えてくれるのだそうです。

ある白人女性が、アボリジニの人たちと長くて厳しい旅をすることになり、いろんな不思議な体験をしたのですが、その体験談の中で、アボリジニが語った一言に、私はドキッとしました。白人女性がアボリジニに「みんなで一列になって全力でかけっこをしよう」と提案し、『一番速い人が勝つ』ゲームだと説明すると、アボリジニはこう言ったそうです。

「だけど、一人が勝ったら、残りのみんなは負けるんだらう。それは楽しいのか?ゲームは楽しむためにあるんだよ。どうしてみんなでそんな競争をするんだらう。何のために?その習慣は、よくわからないよ。あなたの国では、それでうまくいくのか?」

ハッとしました。よく考えてみると、私の生活の細々とした出来事すべてが、大小様々な競争で成り立っているように思えてきました。スポーツも勉強も、おしゃれや友情の深ささえも、「他の人より優れている、良いものをたくさん持っている」力比べに過ぎないように思え、ショックを受けました。

ゲーム、じゃんけん、宝くじなど、他愛のないことでも勝負に勝つということは、単純にうれしい気持ちで満たされます。負けると悔しい思いをします。なぜでしょう。なぜ勝つとうれしいのでしょうか。その喜びに何の意味があるのでしょうか。勝つためのスポーツですか?人生の成功者、勝利者になるための勉強ですか?かといって、アボリジニの人たちが努力をすることなく、ただ仲良く足並みをそろえて暮らしているというわけではなく、日々向上を目指しています。彼らの言う向上とは、自分が人や自然に対してどれだけ貢献できるか、その才能を見つけそれを誇りにして磨いていくことです。「道具づくりの名人」「鳥の心を読む名人」「歌の名人」など、自分で他の人に役立つことを見つけ、その達人を目指すのです。そして彼らは、仲間の才能とその向上を祝う会を、たびたび開きます。自分の才能が向上したと判断した本人が、人々に祝ってくださいとお願いし、みんなでその向上を同じ喜びの心で祝うのだそうです。人の役に立つ才能を磨くことが喜びであり、それを一緒に喜び祝う人たちなのです。そこには勝ち負けも優劣も、おごりもねたみもありません。本人の努力と向上が、本人のためだけならば、その喜びも本人だけのもので、そこには何の意味もありません。競争に勝った自分を自分でほめている、そこで終わりです。今の私たちの生活は、全てに競争心があり、自分のための力をつけているのではないのでしょうか。人より優れていることを誇りとしている。学校での勉強も、自分ためだけに……。人の上を目指す心は、誰にでもあります。そういう心だけを持ちながら、人の役に立てると思いますか?自分の才能をアボリジニのように、人のために使うことができますか?競争に勝つという喜びではなく、他の人に役立つことがうれしいという気持ちがもとにあり、そのための努力と向上なら、その喜びはみんなのものになり、うれしい気持ちが自分の他人の間で響き合います。

競争から降りる勇氣はありません。友達もみんな一生懸命走っているからです。一緒に走ってみたいです。けれど、学校での勉強が、自分の才能の発見と上達の訓練のためにあるんだと、人はそれぞれ違った才能を持ち、そこに優劣は全くないと確信できるなら、勉強も今のよう苦痛なだけのものでなくなると思います。私にも、人の役に立てる才能があること、大人になった時、人や自然のために努力している自分がいることを信じて、私は今を一生懸命努力し、前へ進んでいきたいと思っています。